

夏油傑×五条悟

いばらの の箱庭

R18

■■■■市のとある
湖に竜蛇タツケサワという怪異あり

竜蛇が
水面を泳ぐ時



水難に遭うとされ

その怪異に
出会であした者皆

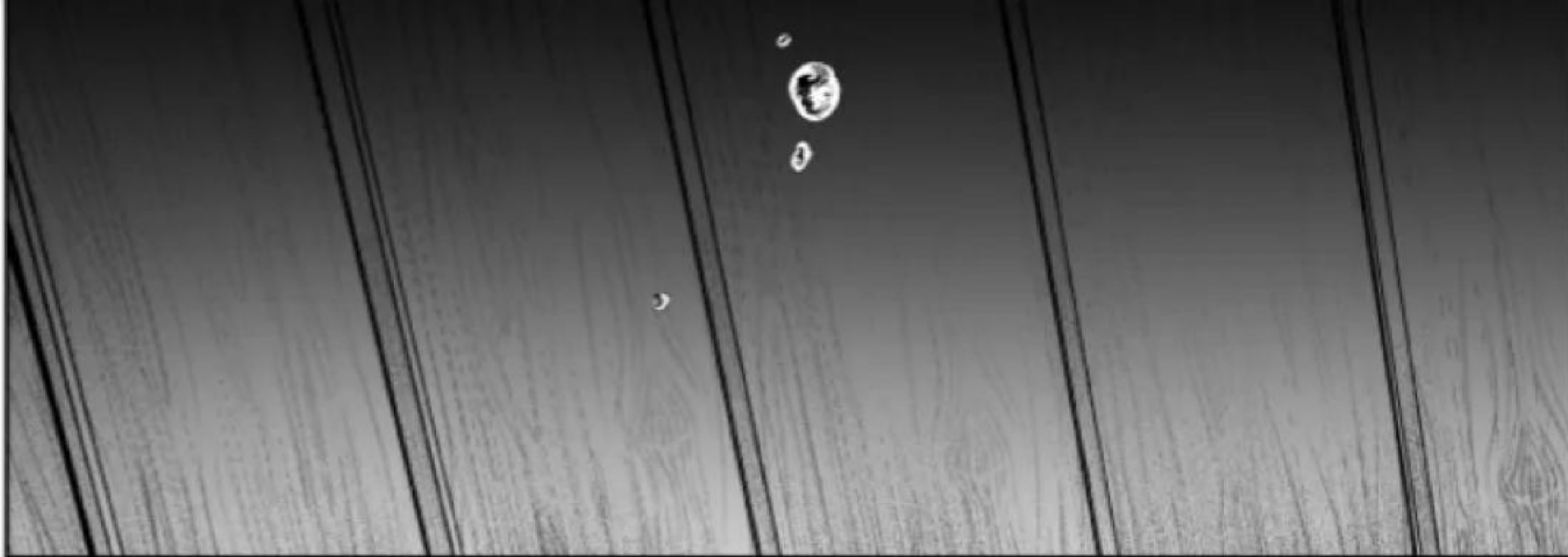
帰らなかったという

タツクチナワ
これが竜蛇か

きて











…悟？



どうして悟が…

ガッ



















六眼でわかってたら
こんな…

あー



抹香臭いんだよ
お前

心外だな

君のその眼で
わかったのか？



…何お前



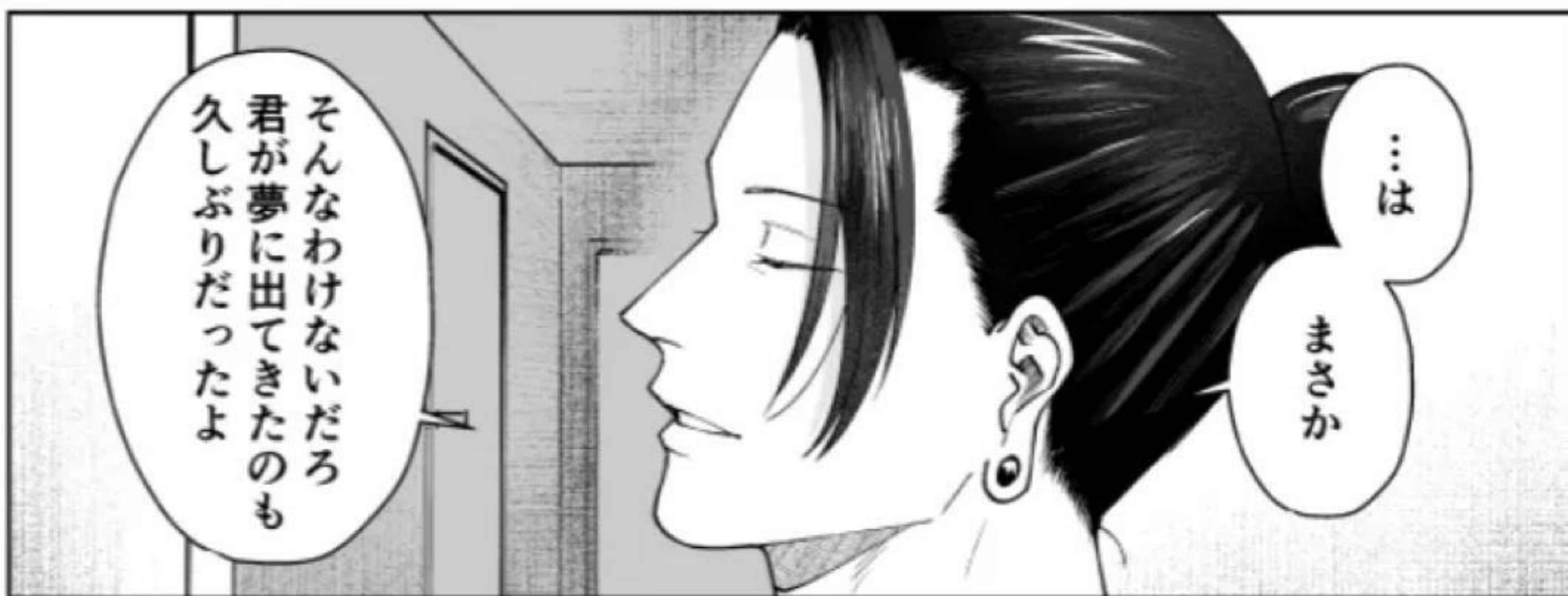
…にしても
なんでお前の部屋？

さあな

私の記憶を模倣したか
夢でも見てるんじゃないか



夢で俺に
いつもあんな事してんの



…は

まさか

そんなわけないだろ
君が夢に出てきたのも
久しぶりだったよ



君とのことも
十年も前の話だし

そういうの
間に合ってるよ





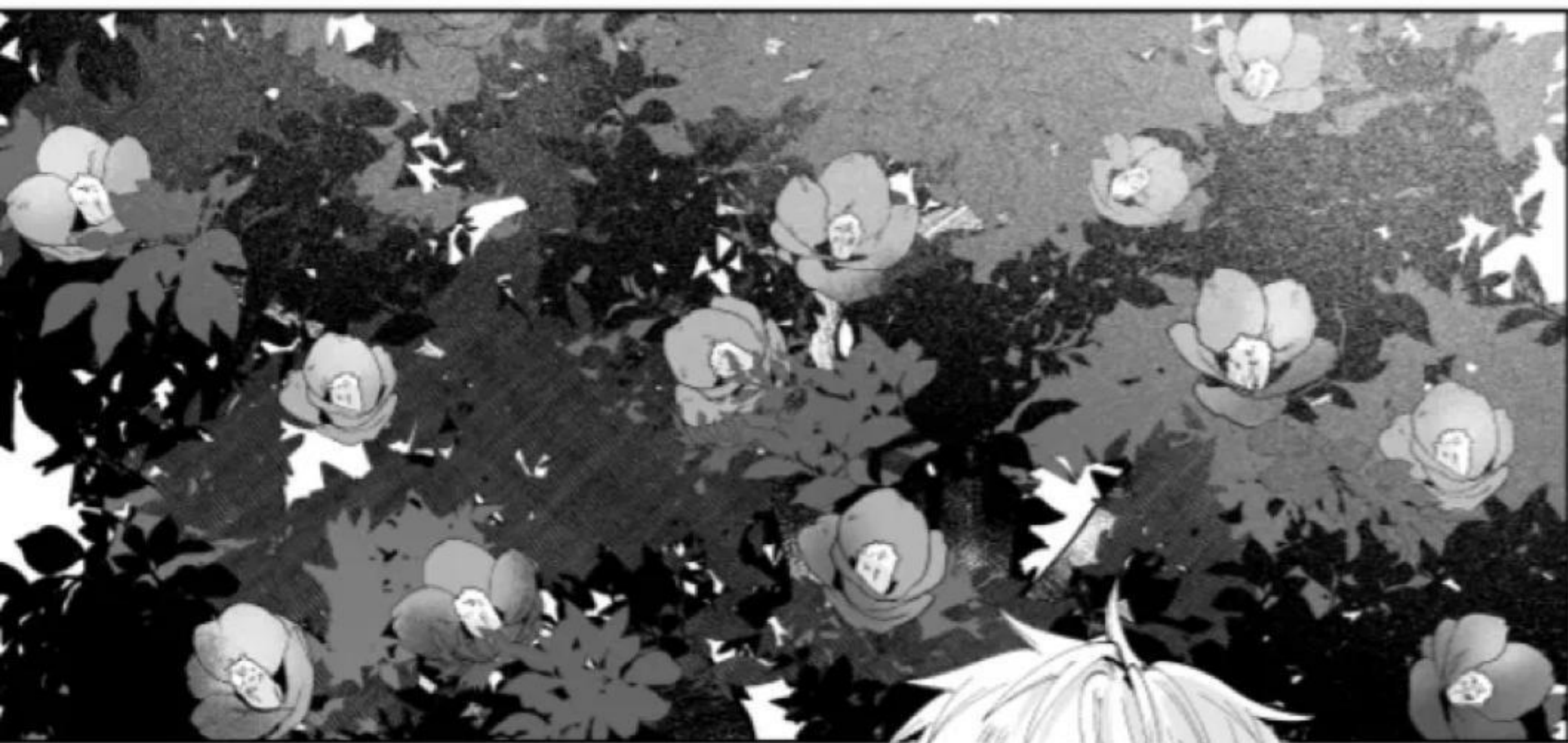
…そうだね

お前がいなくても
困らなかったよ

でも







一見何の変哲もないけど
壊せそうにはないね

ユニユニッ

強力な結界だね
当然普通には出られない

ってことは



出られるまで
僕とお前は

二人で
過ぎさなきやならない



とにかく情報の
共有をしよう

君からどうぞ

お前から言えよ



仕方ないね

こっちのセリフ



術師が数名行方不明
それで僕に回ってきた

呪霊は竜蛇
とかいったな

古い呪霊だ
さっさと祓って終わり
だと思ってたけど



竜蛇と「子供」に
ついて書いてあった



私は昔の術師の
手記を手に入れた

よくある話だが
気になる点があつてな



その湖では子供が
溺れる事が多々あったそうだ

そうやって竜蛇が祀られ
亡くなった子の供養として
人形が捧げられていた



だが術師が訪れた時には
付近の村も廃れた
後だったらしい

呪霊は人から生じる呪いだ
通常であれば力を失って
いるはずだが――



どうやらそこで
竜蛇と見え^{まみ}たようだ

術師は命こそ
助かったが

「自分では救えなかった」
とある

昔の術師が残した手記だ
当てになるかはわからないが

「竜蛇がいる限り
子供は幽世にいけない」と

相当弱ってても
おかしくないのにな

子供ねえ

お前慈善活動でも
してんの？

別に

そういうわけ
じゃない

とにかく状況を鑑みるに
時空が歪んでる可能性が高い
外部から叩いてもらうのは
期待しない方がいいね

ひとまず部屋の
探索だな

何か変わった
こととかあるかも



未来のロボットしかり
引き出しに
タイムマシンとか

あったところで
私達が入れるサイズか？



相変わらず正論
夢がないね

それとも恥ずかしいもの
でもあんの？

引くくらい
特殊なAVとか？

ないよ



助けて未来のロボット
俺のことポイした男の
ちんこもげる道具出してよ

…何だ？

未来のロボットでも
いたのか





見つけた物は
元々部屋にあったものだな



08:43

体感的には十時間以上
経ってそうだけど
時計も動いてない

っていうか

腹減るんだな？

わかりにくいだけで
時間経過はしてるのかもな

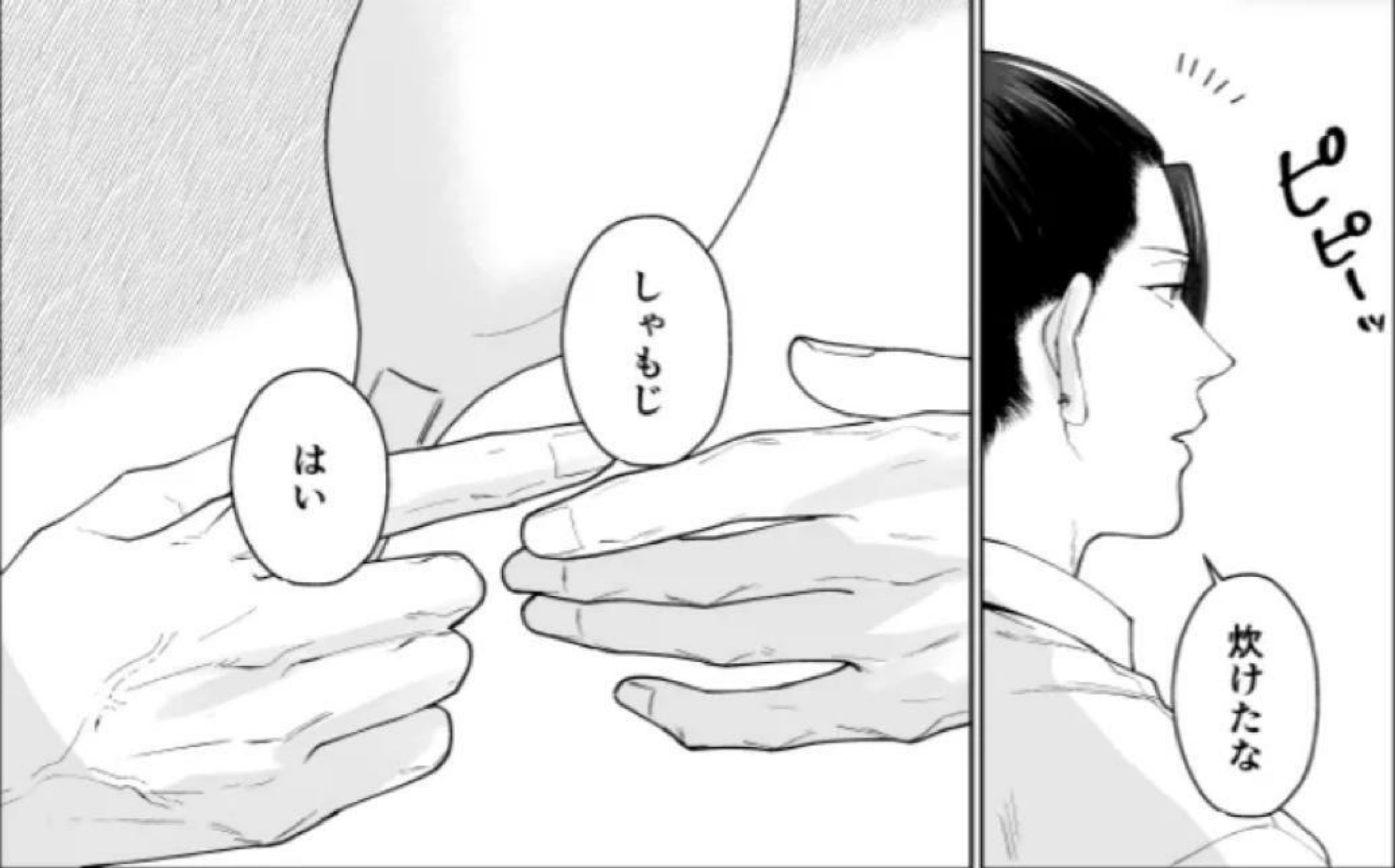
傑

ア・レ・

作って

…は？







作ってやったんだから
何か言いなよ

ん

はぐっ

うまい



...



お前のこれ
卵とめんつゆだけなのに
何でうまいんだろうな

自分でも作れるだろ



作ったよ

何回か

でもこれには
ならなかった

こうなると俺が炊飯器
買ってきて正解だったな

レンチンじゃなくて
今度からこれ使えよ

は？何で？

え？
…買った？

その節はどうも

食べ終わったなら
悟が片付けな

言われなくても
そうするつもりだったし

現実でどのくらい
時間が経ってるんだろうな





こうしてると

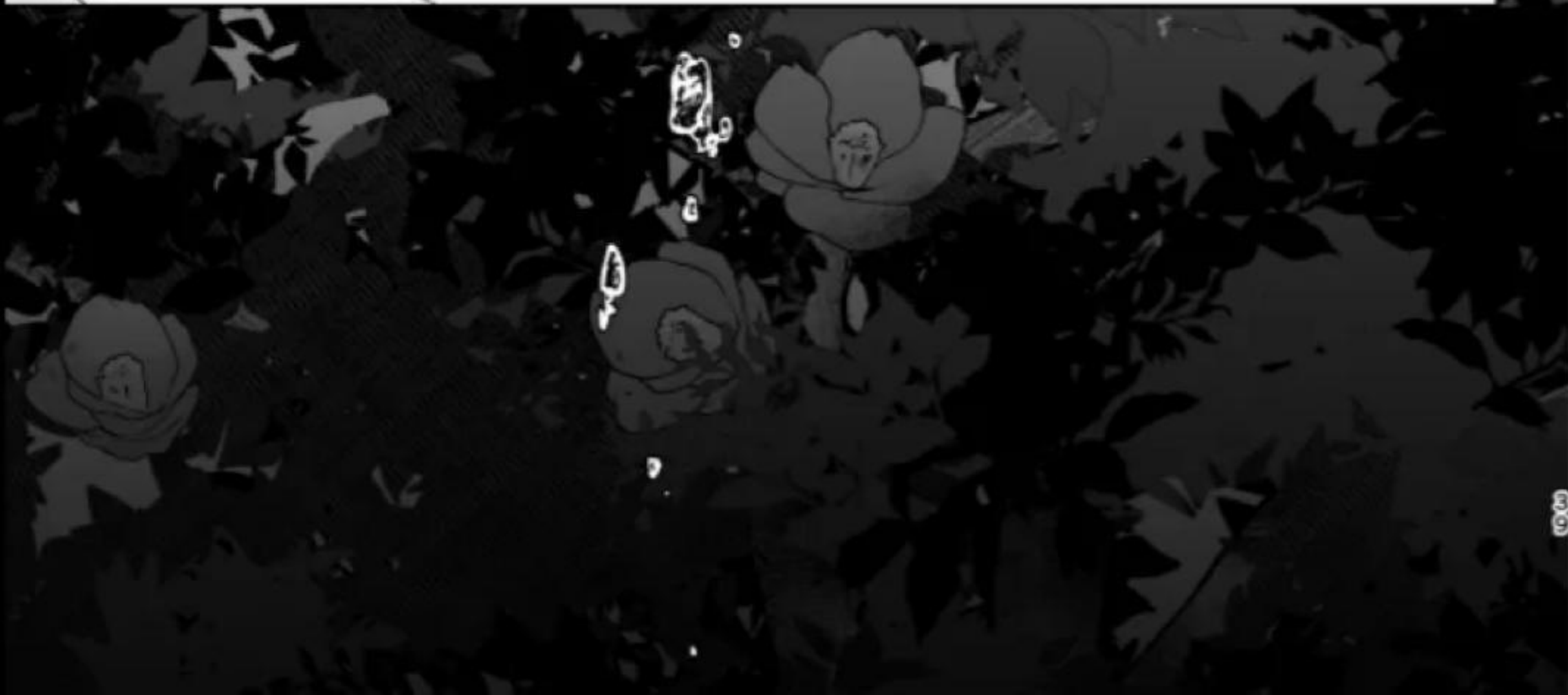
まるで本当に

高専の頃みたいだ



…かもね

でもここは
あの頃じゃない





俺らの感覚より
ずっと時間経ってるのかも

部屋は一通り
調べ尽くしたし

何回やっても
傷ひとつつかない

壁を壊そうとする図

それなら休めるうちに
休んだほうがいい

交代でなら
いいだろ

ああ…

じゃ

おやすみ

は？



良い大人が
何か言ってるんだ

今は17歳(推定)
だもん♡



俺を床で寝せる気？

おかしくないか？
今の流れは私からだろ

それに私のベッドだ



いーや
俺はかわいいね!!

全く可愛く
ないんだけど

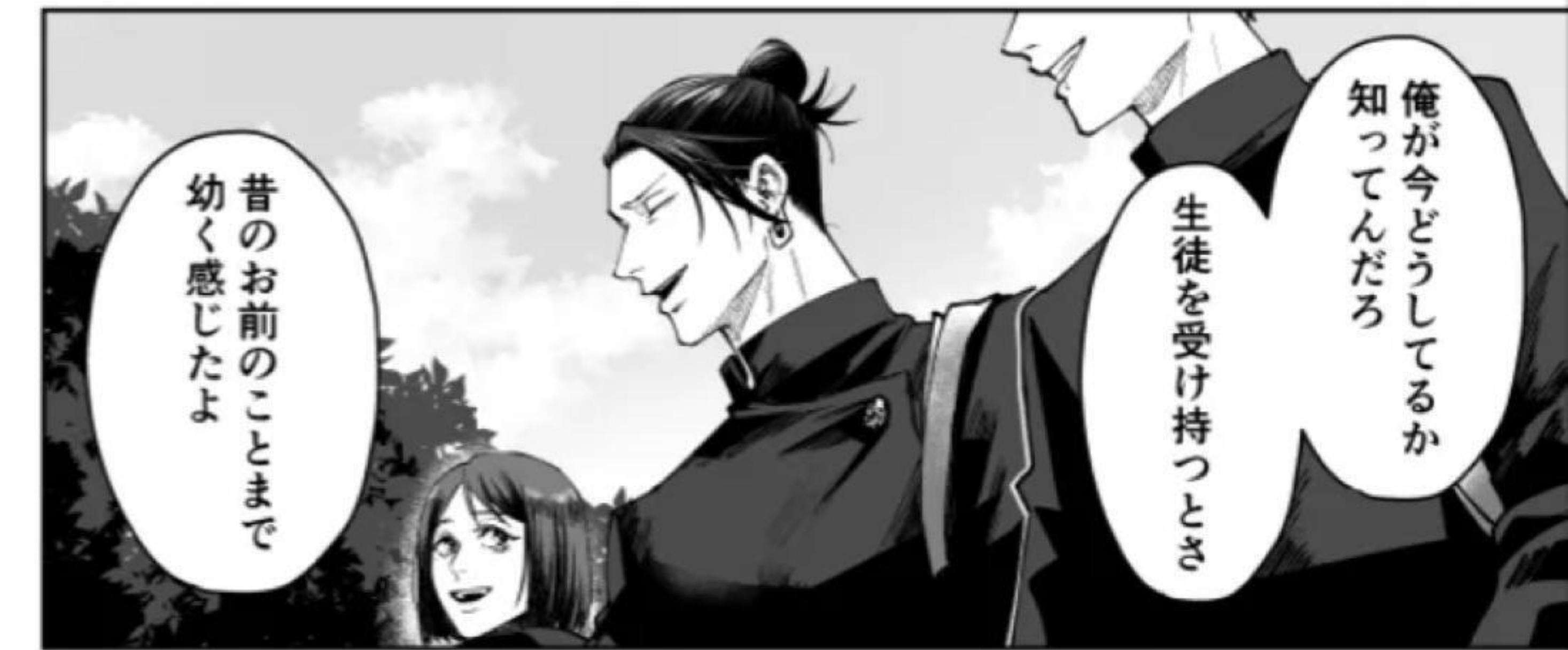






お前の私物
ダンボール数箱分だった

AVとかは全部俺が
処分したから安心しろよ



俺が今どうしてるか
知ってんだろ

生徒を受け持つとき

昔のお前のことまで
幼く感じたよ



お前相変わらず
呪霊集めてるんだろ

術師だけの世界
作る気なの

どうであれお前が
足を止めない限り









…私は何を

傑ー？



出る方法を
探してただけさ

ふうん



こんなところで
何してんの？

別に



……



出られなかったら
どうする？

どうするって…

ここは呪霊の
結界の中だ

最終的には
死ぬんじゃないのか



はい正論

やっぱり夢がないね

ハア？

俺が言いたいのは
そうじゃなくて



ここが本当に
過去で

もう一回やり直してるん
だとしたら…



…なんて



じゃっ 俺シャワー
浴びてくるから

どのくらい経ったか
わからないし
シャワーも浴びたいよ



サッパリしたら
何か思いつくかもだし

悟

…本来なら私達は

傑

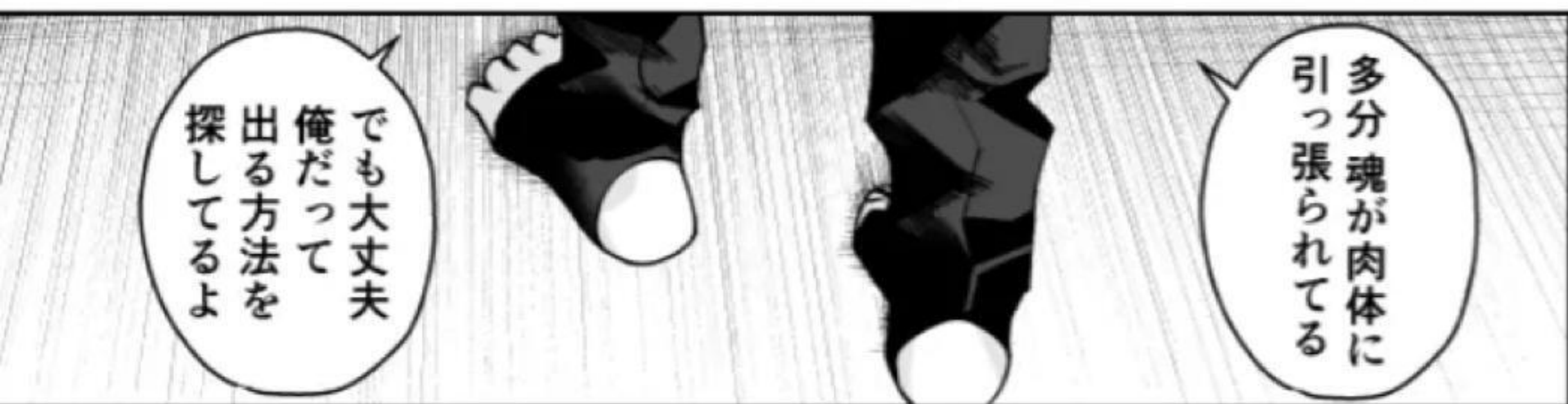




それが勘違いでもさ



期待したまままで
いさせろよ



多分魂が肉体に
引っ張られてる

でも大丈夫
俺だって
出る方法を
探してるよ



お前も後で
シャワー
浴びるといいよ



…まあ

この状況で

何か変わるとは
思ってたが



そっちもか

えっ…

ホッホッ

んあー
開かない

ムリムリ

オイ



出口探す気
あるんじゃ
なかったのか

あるよ

出ないと俺
超忙しいもん



こんなにダラダラ
してんの初めてかも

休暇だと思えば
悪くないよね



何かがきっかけに
なるかもしれない

現状出られないんだし
俺とお前の二人きりなら

ギシッ



もうやるしかないよな？

傑

!!



…まあ

この状況で

何か変わるとは
思ってたかったが



そっちもか

とど…

ホーッ
ホーッ

んあー
開かない

ムリムリ

オイ



出口探す気
あるんじゃ
なかったのか

あるよ

出ないと俺
超忙しいもん

こんなにダラダラ
してんの初めてかも

休暇だと思えば
悪くないよね

何かがきっかけに
なるかもしれない

ギシッ

現状出られないんだし
俺とお前の二人きりなら

もうやるしかないよな？

傑

!!











…何か食べないか

そうだな
ゲームしたから
腹減ったかも



— …



勝ったのは
私なんだから
君が作りな

トータルで
勝ったの
俺なんだけど

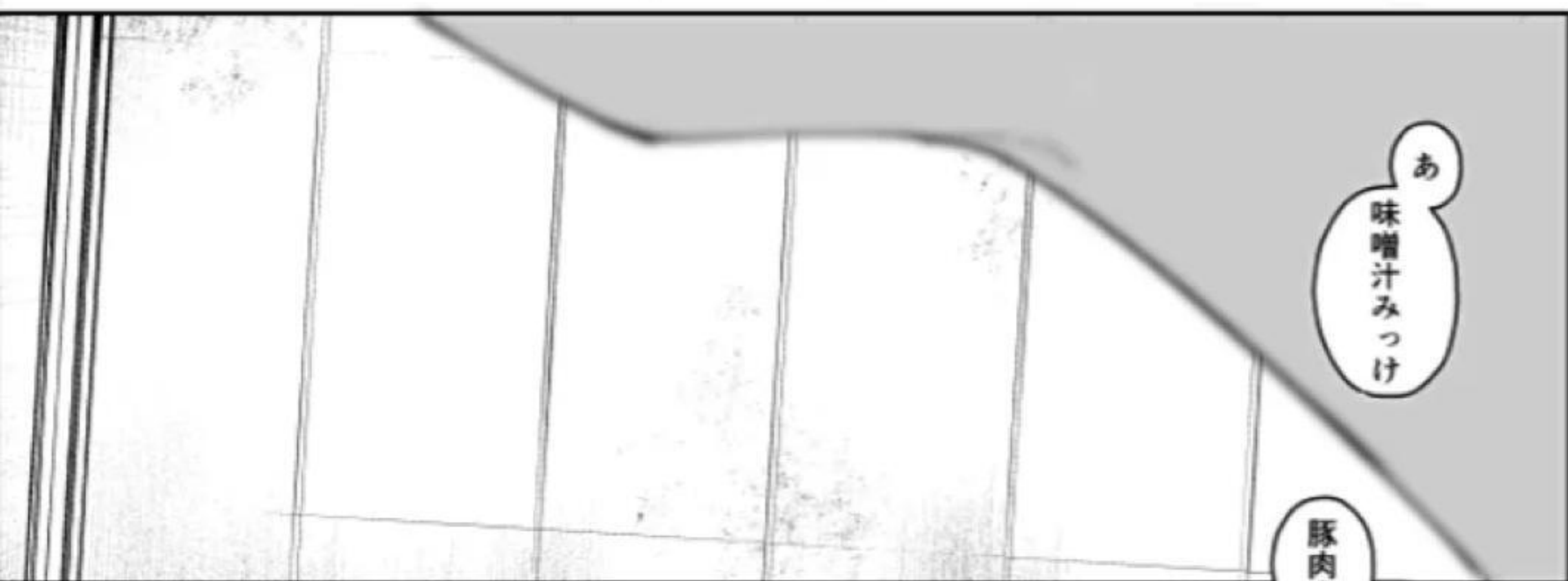


最終的に
勝ったのは私だ

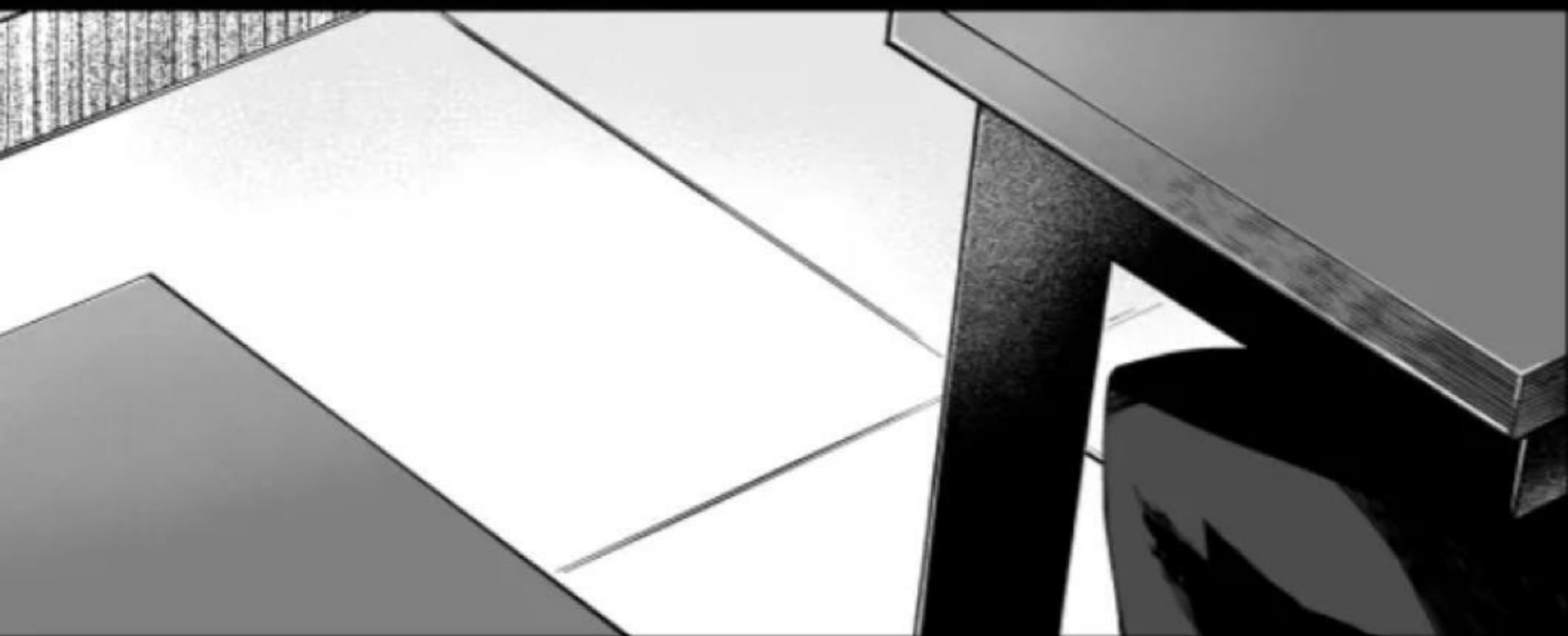
んの
負けず嫌い…

しょうがねーな

ちよっと
待ってろよ



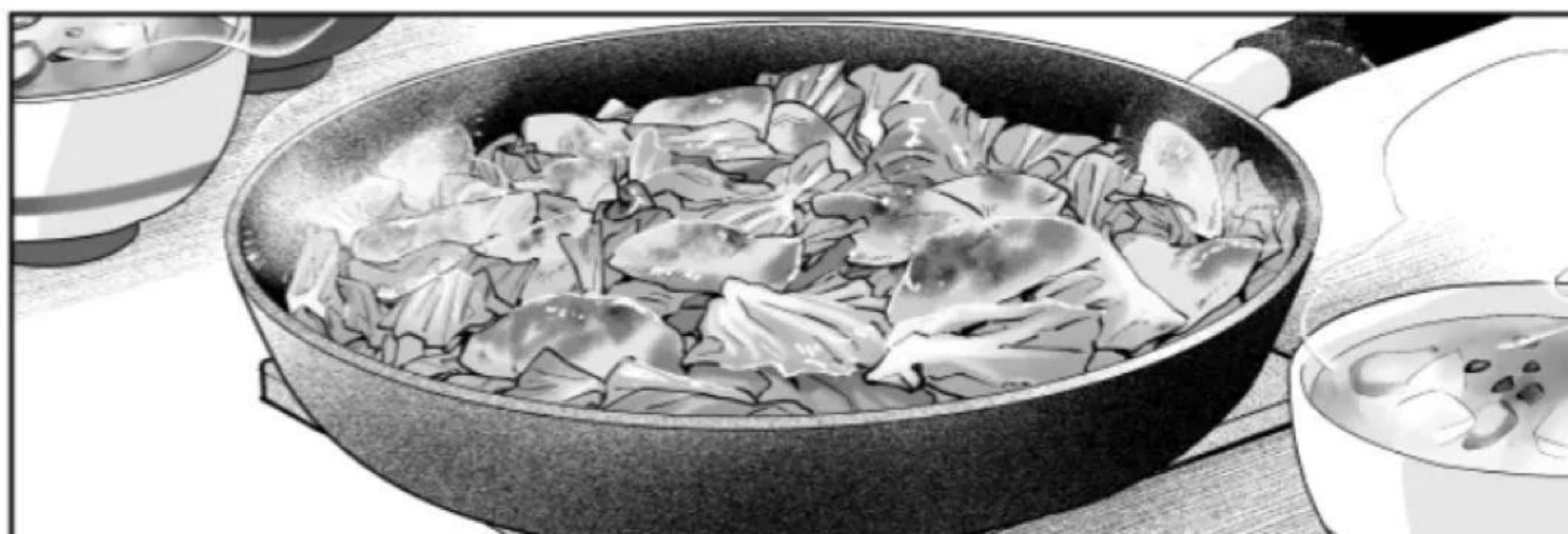


















「友人が気に入るまで」

「食べ尽くして
しまつから」



「少し多めに
送って欲しい」と

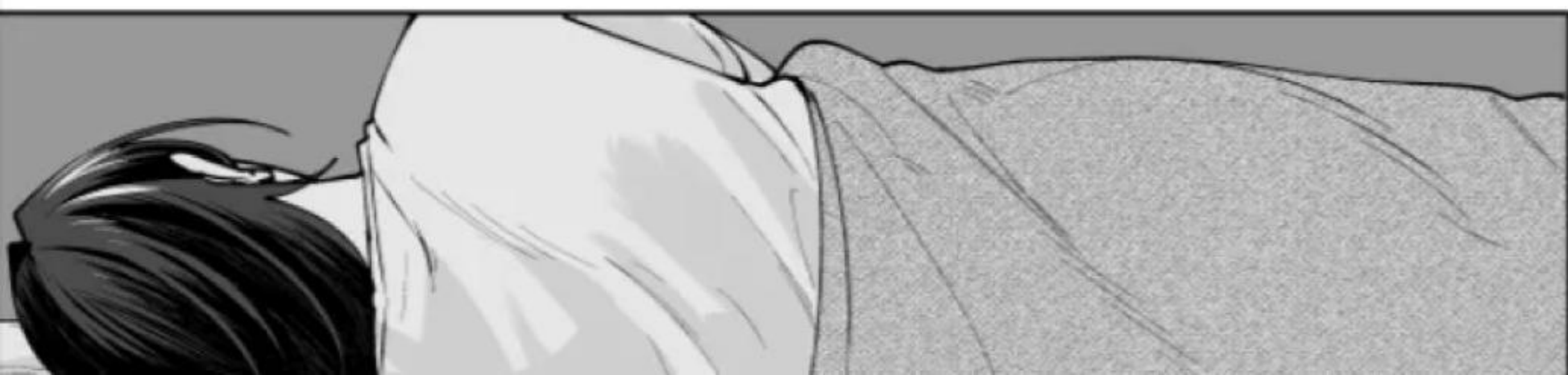
電話口で頼んだ







ごめん









君とここにいと

どちらが夢で
どちらが現実なのか

わからなくなってくる



何をしなかったか
曖昧になっていく



一体何をして



君だってそうだと

無下限すら張っていない

君がそうしていい
わけないだろ







…本当に嫌なら俺の舌でも
噛んじまえばいいのに



そうしないのは
お前だよ



はあっ



お前俺に触れたく
ないんじゃないかって



触れられないって
顔してる



抱けよ



ここじゃ
俺たち以外

誰もいない



体裁とかそんなの
どうでもいいよ

咎めるやつなんて
どこにもいない

それともやっぱり



僕のこと抱けない？











ん

す

っ

ん

ふっ

ん

ちゅー
ちゅー

ぬち

んっ

ちゅー
ちゅー

はあ、

はあ









ここが本当に
あの頃なら



♪のまも

君と二人で





俺は別に

セックスが
好きなわけじゃないし

そんなことしてる
ヒマもないし



無下限も使えない

そんな無防備な姿
他人には晒せない



…君と私だって
他人だろ



そうかもな





おやすみ 傑



夢を見た



灰原と七海が花束を
差し出してくる



硝子は
「医者ってもっと
楽だと思ってたのに」
と笑っている



若い術師が
演習を急かす
その先に



悟と私がいた

二人でコンビニで
アイスを買って

古臭い映画を流しながら

同じベッドで眠る

そんな夢だった

私が選び
私が手放した



呼吸さえ上手く
できなかつた

でもそれなら



どこでなら
君と一緒にいられた？









忘れたらまた
指導されるぞ



どっちにしろ
今からじゃ
遅いだろ

靴下借りる



今日提出するものって
なかったか？



私たち何か…

行ってからでいいよ













私が捨てたんだった



そうだった





子への供養が無くなってからは
代わりに竜蛇が
わたしたち
人形を用意していたんだろう

…で俺らが思い通りに
いかなかったから
仲間割れしてんのね

どちら人も人が生んだ呪いだ

そう大層なものじゃない

ピンッ



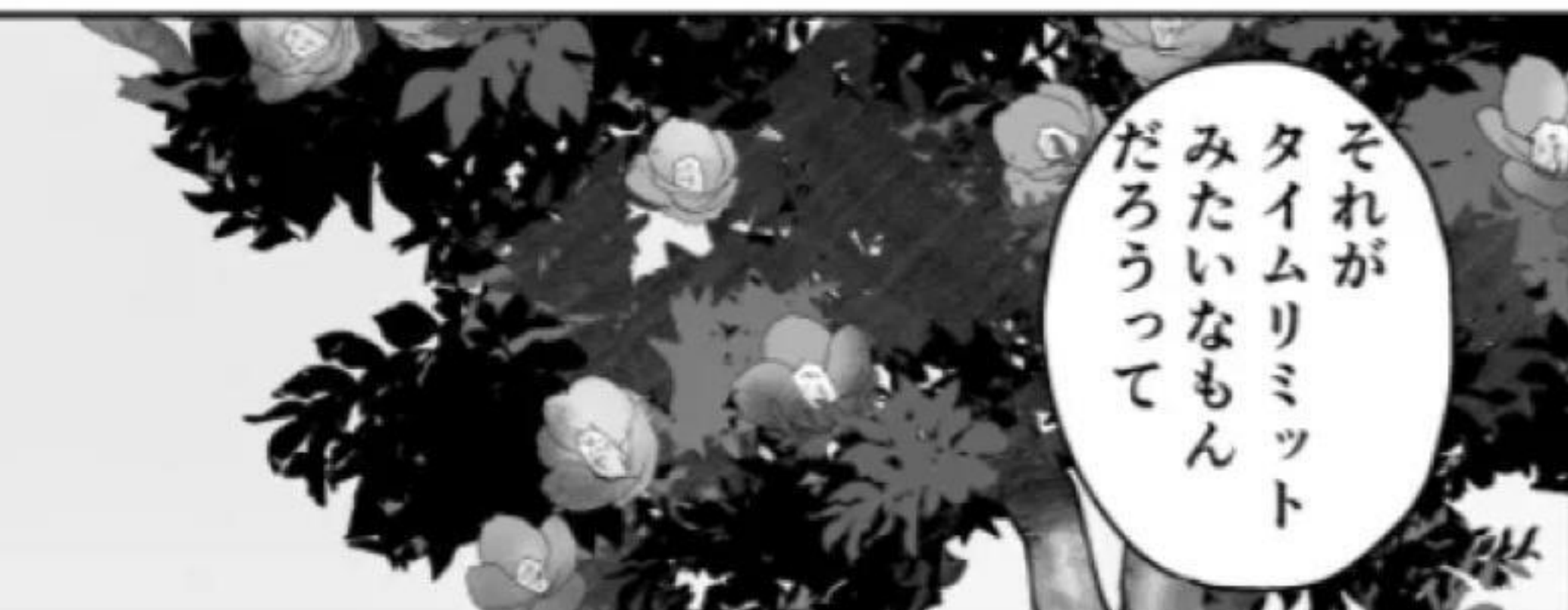


外の椿



時間経過してないはずなのに
花の数が減ってたんだよ

その割に地面には
花一つない



それが
タイムリミット
みたいなもん
だろうって



タイミングさえ
合えば出られると
思ってたよ



何故私に
言わなかった？

下手すれば
二人とも死んでた

——それでも
良かったと？

んなわけねえだろ

時間が欲しかった

私をここに繋ぎ止める
時間とか？

先延ばしにして
一体何が――

違う

お前と一緒にいたかった

傑

俺とこの部屋で

あの頃みたいに過ごして

お前は――

まさか本当に私の気が
変わるとでも？

私が選んだ道だ

――後悔はないよ

…そうか

それだけ聞けりゃいい



僕がこのまま
お前を逃すと
思ってたのか





見ろよ
君が祓除したのに
まだ空間を保ってる



実のところよっぽど強い
呪いだったのか
それとも



私と

君が

ここにいてる事を
望んでいるのか



出られないのではない

出たくないと思わせる
程度の力だ

だから呪霊は…
私はここを選んだ



お前こそ
そこまでわかってて
何で黙ってた？



君もね



言ったらろ

出た・く・ない・と
思わせるって



馬鹿言うなよ

十年だ



あの時と何も
変わってないな

——まだ撃たないのか



お前がいない間
教え子ができて
仲間も増えた

十年かけて
僕はお前を殺す
覚悟を決めたよ



僕もお前も
もう子供じゃない

あの頃の
僕じゃない



そうだ

君も君自身で

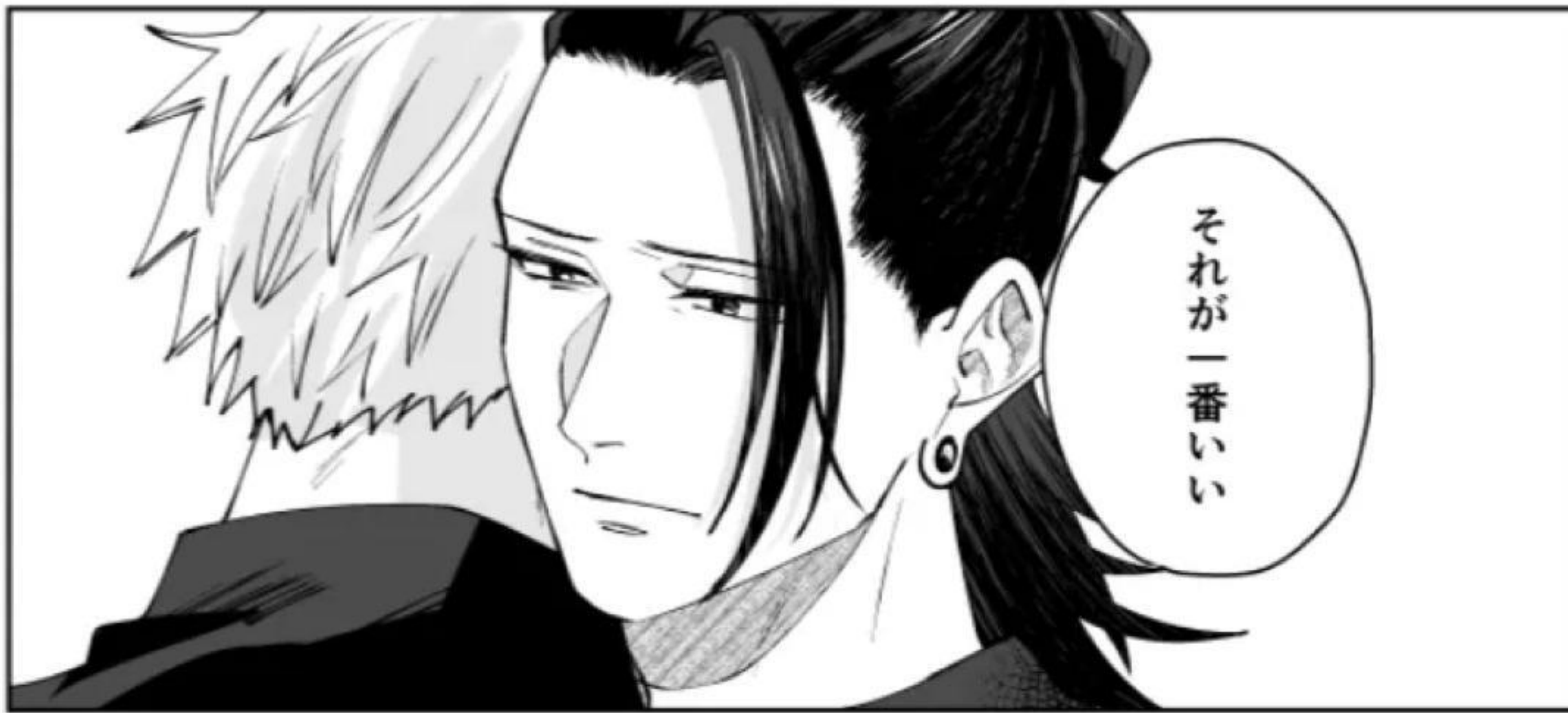
そこを選んだんだろ















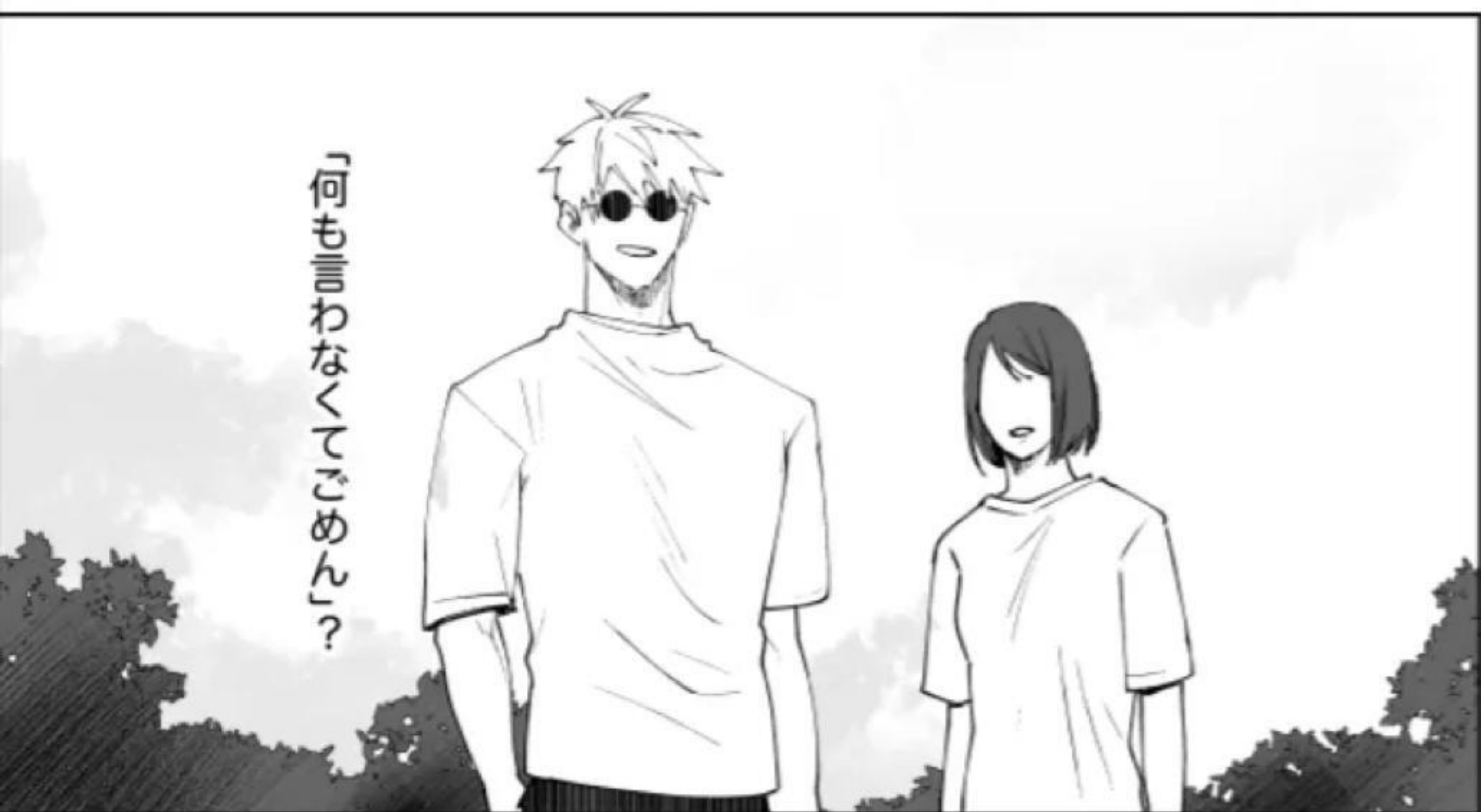
俺はお前と
生きていききたかった

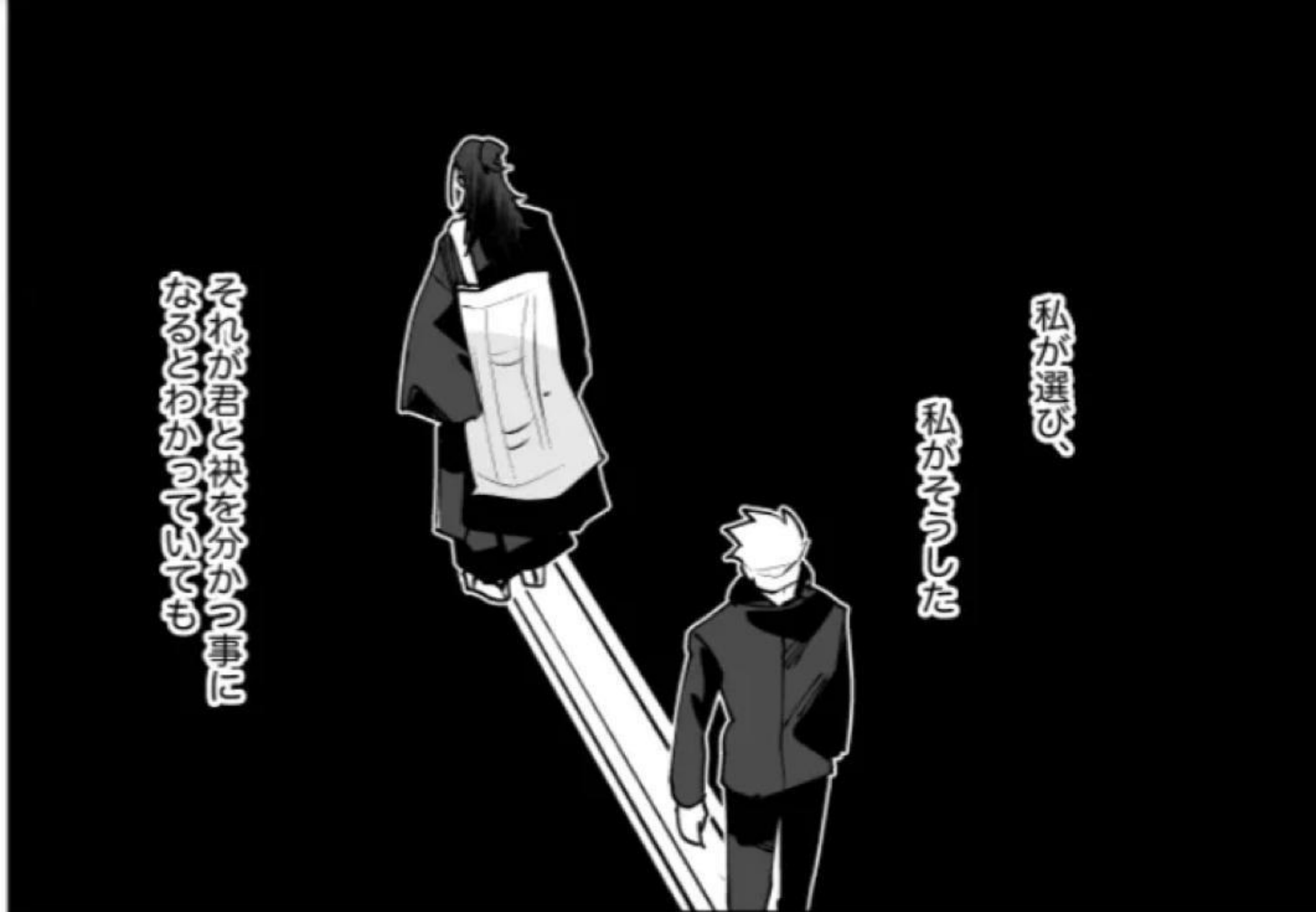


——ああ



私もだよ





私が選ぶ、

私がそうした

それが君と袂を分かっ事にな
るとわかっていても



私が選んだ



悟

君は悪くない

ここは箱庭だ

どう足掻いても

過去には戻れない



「君さえいてくれればいい」って

言えればよかったのに



体が若いからかな

君に縋り付いたままで
いたくなる



でもでも



私は一度も君から
離れたいと思っただことは無いよ



許さなくていい



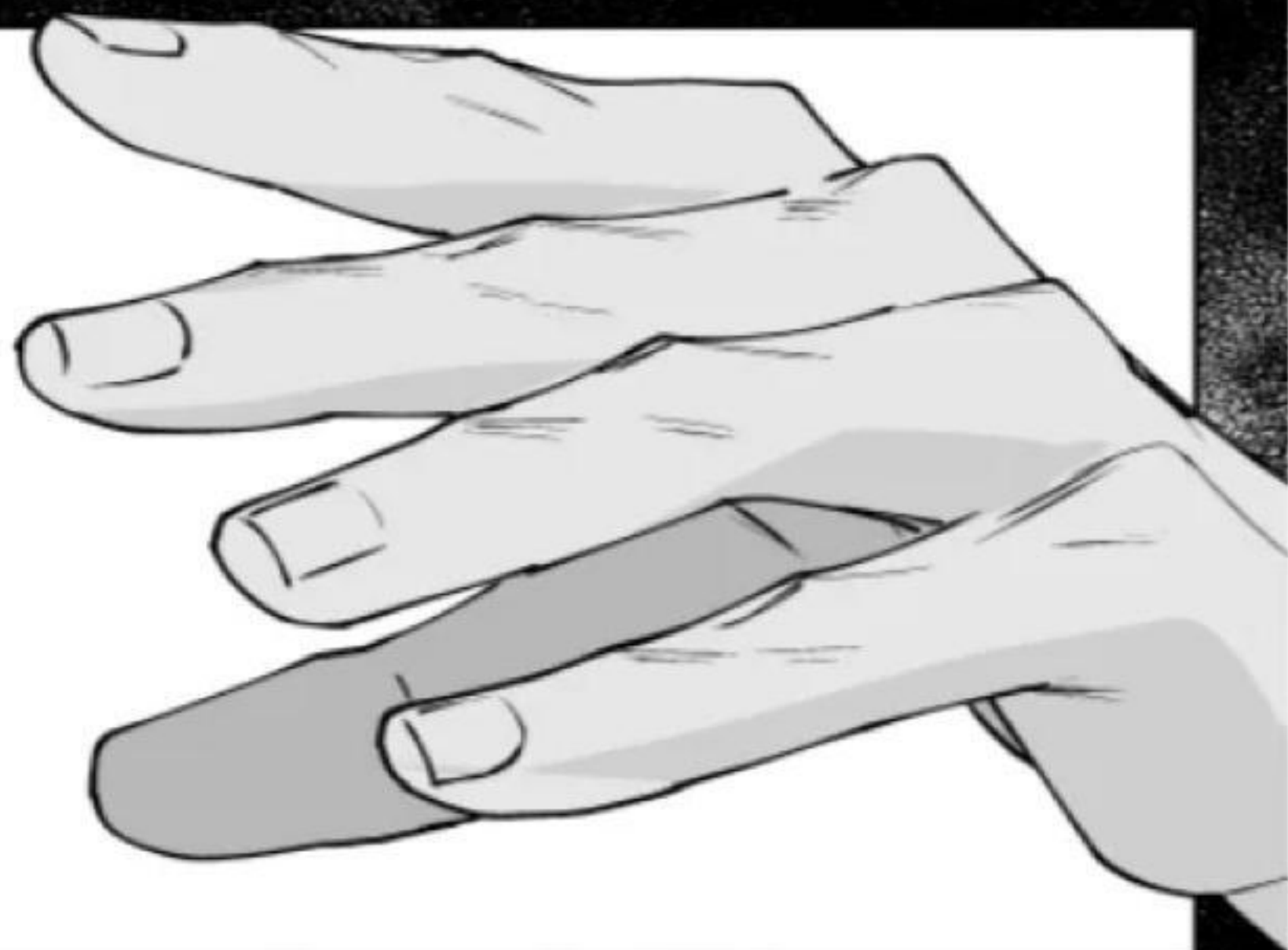
愛してくれなくていい



いっそ



君は君の帰る場所へ



私は私の道に行く





体が若いから

我ながら呆れる



はは



君に背を向けてでも

やらなければならない



私が私であるために

来たる12月24日

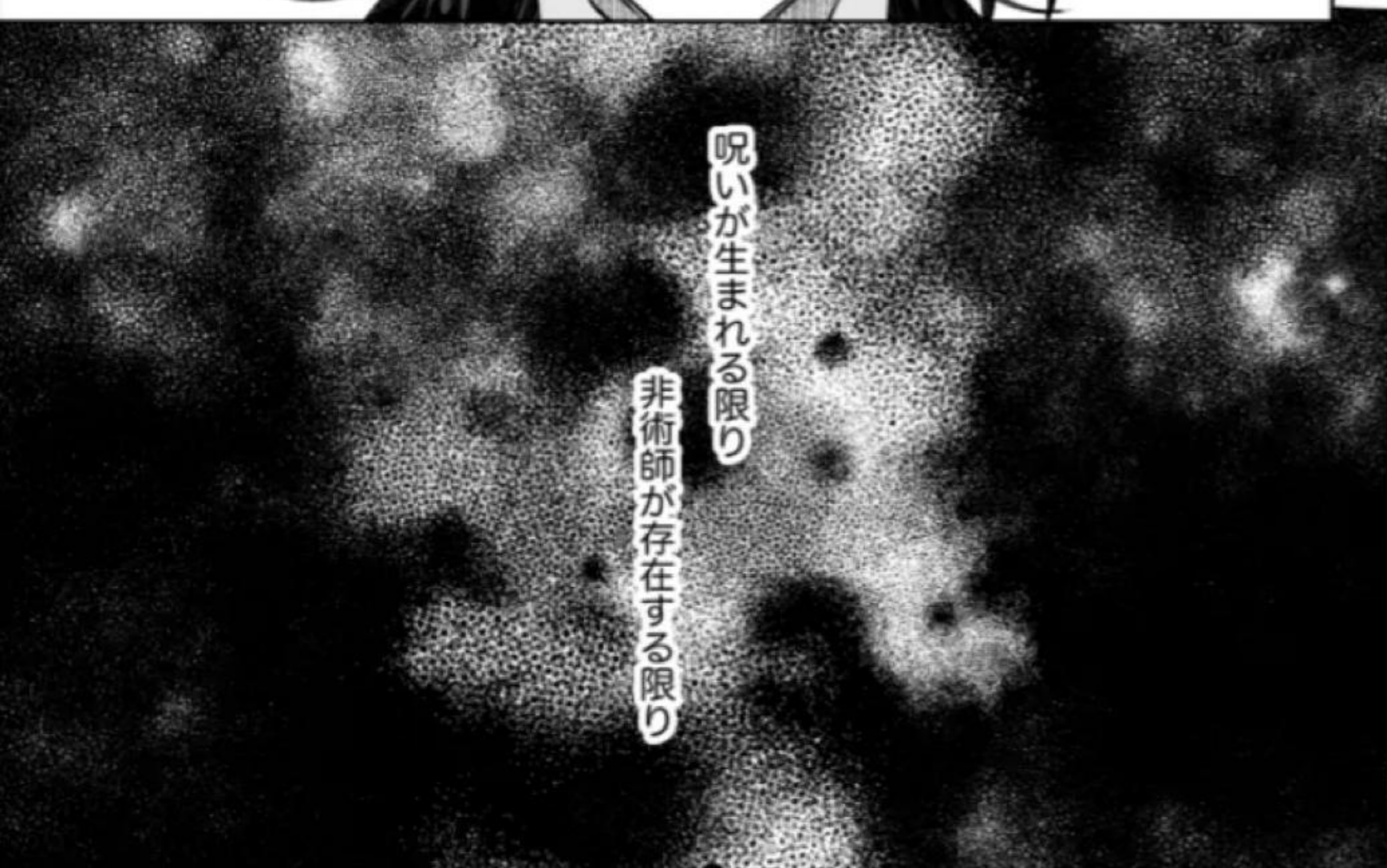
日没と同時に

我々は百鬼夜行を行う



思う存分

呪い合おう
じゃないか



呪いが生まれる限り

非術師が存在する限り

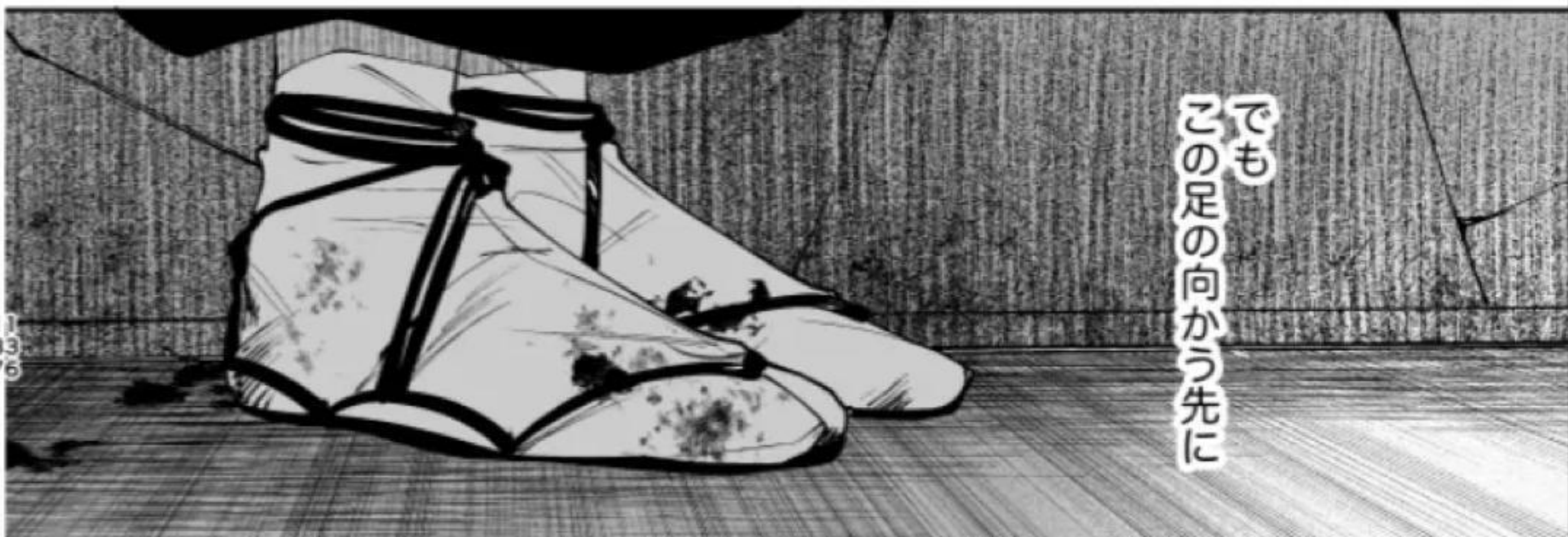
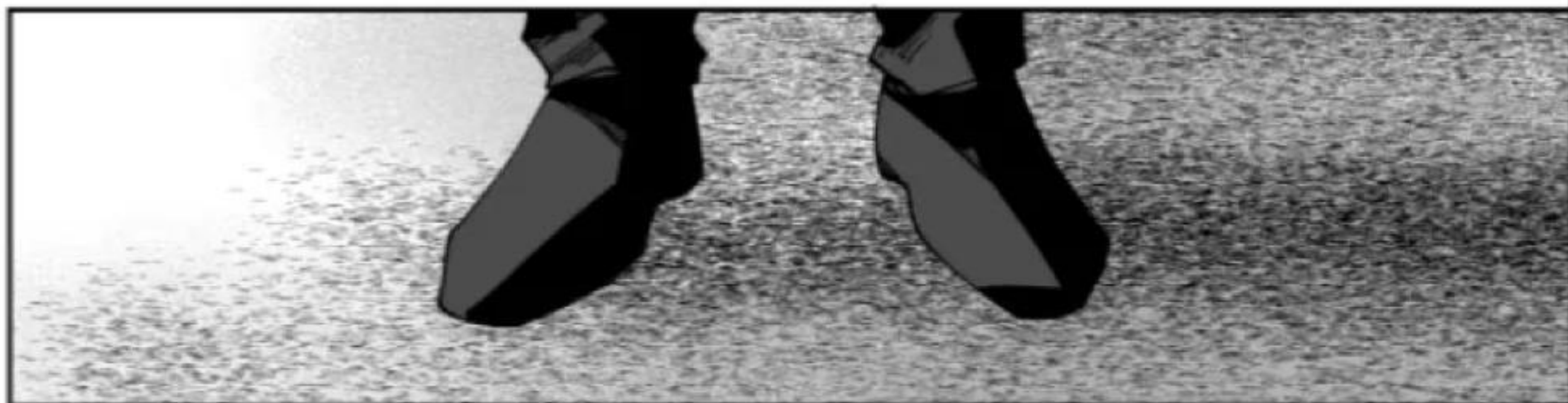


次だ

私は歩みを止めない



次こそ手に入れる



でも
この足の向かう先に



遅かったじゃないか

悟



君がいるのなら





ここまでか



私の終わりにしては
悪くない



誰が何と言おうと
非術師は嫌いだ

でも別に高専の連中まで
憎かったわけじゃない



何か言い残す事はあるか



ただこの世界では
私は心の底から
笑えなかった



君に祓^{のろ}われて
逝くのなら
それで――

傑



これでいい









思い出すのは



なあ悟



君と過ごした
ことばかりで



たった三年間が
焼きついて離れない



もし、君が許してくれるなら







もう一度君の隣へ



最期くらい
呪いの言葉を吐けよ



A black and white illustration of a hand reaching out from a dark, textured background. The hand is light-colored with visible lines on the palm and fingers. The background is dark and grainy, with some lighter, cloud-like shapes. The hand is positioned horizontally, with the fingers pointing towards the left.

君の言葉はどれも

呪いとは程遠い

A black and white illustration of a hand reaching out from a dark, textured background. The hand is light-colored with visible lines on the palm and fingers. The background is dark and grainy, with some lighter, cloud-like shapes. The hand is positioned horizontally, with the fingers pointing towards the left.

また君に会うときに

死ぬときは独りだって？

そんなこと教えたのか

ああ

お前のせいで嘘つきに
なっちゃった

心外だな

君だって私を独りには
しなかったじゃないか

今度は
私から伝えよう



お前こそ
好き勝手やっただろ

満足したか？

満足とは少し違うかな

はあ？

いいよ
ゆっくり話そう

君に話したいことが
たくさんあるんだ

それを愛と呼ぶのだと

野暮な話を描いてしまいました
この二人を好きでいて良かったと思います
お手に取っていただきありがとうございました！

ぼくらの箱庭
2024/6/30 発行
もぬけ(もぬけのからごと)
X @monuke_wxs
mail y.k.36933@gmail.com
印刷所 くりえい社様

マシュマロ



感想いただけると励みになります

転載・ネットオークション・フリマアプリへの転売禁止



JUJUTSU KAISEN
UNOFFICIAL FANBOOK